

マユ玉人形をつくろう

担当：動物研究室

1 内容

マユ玉を加工，着色して動物の人形をつくる活動である。カイコのマユを扱う活動をとおして，カイコの生態や成長のようす，カイコのマユが絹糸として利用されていることについて理解を深めることを目的とする。

【カイコとは】

カイコとは，カイコガ科に属するガの一種。幼虫はクワの葉を食草とし，成長するとマユをつくりその中で蛹となる。成虫は翅があるものの，腹部が重く飛翔できない。中国では，5000年以上前から絹糸を採集するために飼育し家畜化され，日本に渡ってきたのは約1800年前ごろだといわれている。カイコは養蚕のために飼育された種で，幼虫も成虫も野外では生育できなくなっており，野外では見るができない。

2 準備物

マユ（インターネット上の通信販売で購入可能。染色しているものやマユから蛹を取り出したものなど様々な種類が販売されている。）

【彩色する道具】

マジックペン（先が細いもの），水性蛍光マーカー，水彩絵の具など

【加工する道具】

クラフト用ハサミ，カッター，木工用速乾ボンド，ゼリー状瞬間接着剤



マユと取り出した蛹

3 手順

- (1) カイコの成長段階模型を用い，カイコの生態や成長のようすについて知る。
- (2) ガの標本をみて，カイコと同じなかまであるガ類について知る。
- (3) マユを用いて動物の人形を製作する。

①マユの中に蛹が入っている場合，以下のような方法で蛹をとりだす。

- ・マユのはじめに切れ目をいれる
- ・マユの下部をカットする（指人形にもできる）

②マユに製作したい動物をきめて下書きをする。

- ・下書きはシャープペンシルなどで薄く書くことができる。消しゴムで消すこともできる。

③マユに製作する動物にあわせた彩色や加工をする。

- ・彩色する前に遊び毛などをとっておくとよい。
- ・彩色する道具は動物の色合いやぬる範囲などにより選んで使用するとよい。
- ・耳やしっぽなどは，他のマユや蛹を取り出す際にカットしたマユを加工して，ボンドや接着剤でつけるとよい。
- ・マユの下部をカットせずに彩色する際には，つまようじなどを下部に刺して持てるようにすると彩色しやすい。

【作成例】



ポイント

- ①目や鼻などの細い部分は極細のマジックで書くとういでしょう。淡い色は蛍光ペンで書こう。
- ②サルのように体全体を塗るときには，水彩絵の具を使用してもよいでしょう。
- ③持ちにくいときには，つまようじなどを刺して持ち手にすると良いかもしれません。



製作図：「里山のクラフトだより」ホームページ
(<http://www.sato-yama.jp/>) より

4 注意点

- ・マユを加工する際に使用するカッターやハサミでけがをしないように注意する。マユは意外と固く，カッターで切り込みなどを入れる際には力があるので注意が必要。
- ・動物に限らず，加工や彩色を工夫することで植物なども製作することができる。

5 参考資料

「里山のクラフトだより」(<http://www.sato-yama.jp/>)